

県内一農村都市における自己健康管理について

南星クリニック 長谷田 祐作
長谷田 祐一

はじめに

中高年齢者の保健調査が富山県農村医学研究会により実施され、その成績が同研究会誌第15巻（昭和59年3月）に報告されたことは周知の通りである。私はそのメンバーの一人として参加して居たが、富山県の穀倉地帯とも言われている砺波市についても調査したいと考え当クリニックを訪れたことのある方々とも相談し同市の平地地区及び山間地区として各一地区あてを選び中高年齢者の保健調査－県内一農村都市における事例－として同研

究会誌第17巻（昭和61年3月）に報告した。

その後、第18巻第1号（昭和61年12月）、同第2号（昭和62年3月）、第19巻（昭和63年3月）、第20巻（平成元年3月）と同地区における意識調査の結果を逐次報告してきたのである。

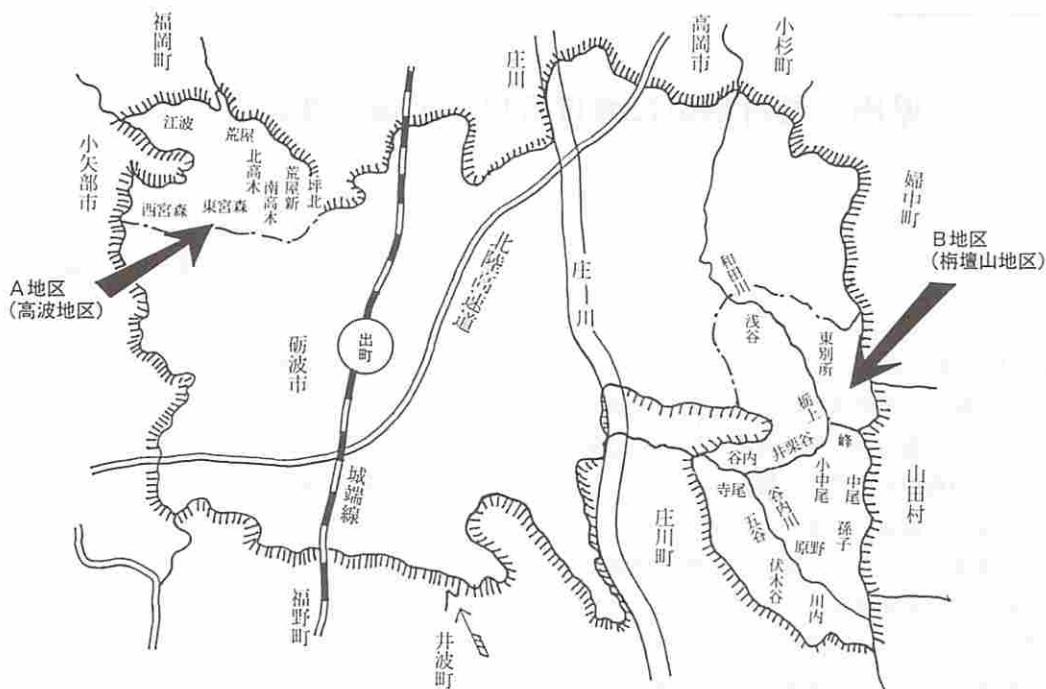
今回は総括的なものとして同地区における最高年代各位の事例を纏めて報告する次第である。

スタートして以来10数年を経過しているので基本的資料を再掲すると次の如くである。

第1図 砺波市の位置



第2図 調査地区略図（砺波市）



第1表 (1) 体に具合の悪いところがある

(A : 平地地区)

年代別 性別	I		II		III		IV		V		VI		計		総計
地区 性別	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才							1		1				2		2
70才	5		5				3	1	4	1	4	4	21	6	27
60才	5	1	8	11	5	1	4	6	4	2	4	5	30	26	56
50才	5	5	8	5	3	3	4		5	1	3	2	28	16	44
40才	2	3	4	3	1	1			2		1		10	7	17
30才							1		1				2		2
計	17	9	25	19	9	5	13	7	17	4	12	11	93	55	148
総計	26		44		14		20		21		23		148 (49.4%)		

(注) I～VIは地区内の区分

第1表 (2) 体に具合の悪いところがない

(A : 平地地区)

年代別 性別	I		II		III		IV		V		VI		計		総計
地区 性別	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才															
70才			1			1			1		2	2	4	3	7
60才	3	3	7		3		3	2	4	3	3	5	23	13	36
50才	2	3	9	6		1	3	2	5		4	6	23	18	41
40才	4	4	10	8	5		3	2	7		3	3	32	17	47
30才		1	2				2		2	1		1	6	3	9
計	9	11	29	14	8	2	11	6	19	4	12	17	88	54	142
総計	20		43		10		17		23		29		142 (47.4%)		

(注) I～VIは地区内の区分

第1表(3) 不明(記載なし)

(A:平地地区)

年代別	地区 性別	I		II		III		IV		V		VI		計		総計
		M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才						1								1		1
70才																
60才							1		1	1	2			1	4	5
50才				1						1				2		2
40才				1										1		1
30才																
計				2		1	1		1	2	2			5	4	9
総計		0		2		2		1		4		0		9		

(注) I～VIは地区内の区分

第2表(1) 体に具合の悪いところがある

(B:山間地区)

年代別	地区 性別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		計		総計
		M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才						2	1					1	1											4	1	5
70才		3		3		2	1	6				6	3					1		1		2	1	24	5	29
60才		7	1	3		1	5	1	1			6	2			4		1	1	1		2	4	33	7	40
50才		1				2	1	4		2	4	1	2			3	2	1	1	2	1			18	9	27
40才		2		1				1	1			1						1						5	2	7
30才																										
計		13	1	7		7	2	17	2	1	2	18	5	4		7	2	2	3	3	2	5	5	84	24	108
総計		14		7		9		19		3		23		4		9		5		5		10		108(59.0%)		

(注) I～XIは地区内の区分

第2表(2) 体に具合の悪いところがない

(B:山間地区)

年代別	地区 性別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		計		総計
		M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才																		1						1		1
70才				1		2						1					1	3	2					7	3	10
60才			1	2		2		4				3	4	1		1	3	1		1				15	8	23
50才		1	1	3		2						1	1	2		3	1	3				1		16	3	19
40才								2					1	1		2		1	1	1		1		8	2	10
30才		2					1	2								1	1							6	1	7
計		3	2	6		6	1	8				5	6	4		7	5	10	3	2		2		53	17	70
総計		5		6		7		8		0		11		4		12		13		2		2		70(38.2%)		

(注) I～XIは地区内の区分

第2表(3) 不明(記載なし)

(B:山間地区)

年代別	地区 性別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		計		総計
		M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才																										
70才																										
60才																	3								3	3
50才																										
40才																	1					1		1	1	2
30才																										
計																	4					1		1	4	5
総計		0		0		0		0		0		0		0		4		0		0		1		5		

(注) I～XIは地区内の区分

第3表 砺波市高齢者実勢

(昭和60年4月1日現在)

地区	項目	人口数	長寿率	老年人口割	その他
出町		6,893	19.0	13.3	
庄下		1,862	17.4	12.0	
中野		1,669	22.4	16.1	
五鹿屋		1,723	22.8	16.5	
東野尻		1,797	21.2	15.4	
鷹栖		2,633	17.8	12.8	
若林		972	21.8	16.4	(A) 平地
林		3,036	17.8	13.0	
高波		1,559	23.4	16.4	
油田		3,535	12.7	8.7	
南般若		1,454	19.6	14.5	
柳瀬		1,013	24.4	18.7	
太田		1,756	21.9	15.0	
般若		2,516	20.1	14.3	
東般若		1,653	21.2	14.5	
梅壇野		1,753	21.7	15.4	100才以上
梅壇山		949	29.3	21.4	(B) 山間
合計		36,773	19.7	14.0	100才以上

(注) 人口数は常在人口数(以下同じ)、長寿者とは60才以上、老年人口は65才以上を指している。

第4表 アンケート集計表

(A: 平地地区)

年代別 地区性別	I		II		III		IV		V		VI		計		総計
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才					1		1		1				3		3
70才	5		6			1	3	1	5	1	6	6	25	9	34
60才	8	4	15	11	8	2	7	9	9	7	7	10	54	43	97
50才	7	8	18	11	3	4	7	2	11	1	7	8	53	34	87
40才	6	7	15	11	6	1	3	2	9		4	3	43	24	67
30才		1	2				3		3	1		1	8	3	11
計	26	20	56	33	18	8	24	14	38	10	24	28	186	113	
総計	46		89		26		38		48		52		299		

(注) I～VIは地区内の区分

第5表 アンケート集計表

(B: 山間地区)

年代別 地区性別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		計		総計
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	
80才					2	1					1	1					1						5	1	6
70才	3		4		4	1	6				7	3				1	4	2	1		2	1	31	8	39
60才	7	2	5		3		9	1	1		9	4	3		5	6	2	1	2		2	4	48	18	66
50才	2	1	3		4	1	4			2	5	2	4		6	3	3	1	1	2	2		34	12	46
40才	2		1				3	1			1	1	1		2	1	1	2	1		2		14	5	19
30才	2					1	2								1		1						6	1	7
計	16	3	13		13	3	25	2	1	2	23	11	8		14	11	12	6	5	2	8	5	138	45	
総計	19		13		16		27		3		34		8		25		19		7		13		183		

(注) I～XIは地区内の区分

第4表、第5表に見られるように最高年代は80才代であり、A、B両地区を合計して9名となる。性、年齢、地区、職業などを明記すれば直ちに何処の誰と名指し可能となり、プライバシーの保全のため、アルファベットで記載することとしたので、この点、読者諸兄の了解を得て置きたいと思う。

成績と考按（事例とその意識）

ここで取り上げたのはアンケート事項10のうち下記の6項目である。

㉔あなたは病気になった時、死の直前まで

手厚い医療を受けたいと思いますか。

㉕あなたは死について考えることがありますか。

㉖あなたは安楽死についてどう思いますか。

㉗死に場所はどこがいいですか。

㉘あなたはあと何年ほど生きたいと思いますか。

㉙現在の老人対策の面であなたの一番関心あるものは何ですか。（3つ書いて下さい。）

上記の成績を前記の如く80才代について纏めたものが第6表である。

第6表 意識調査（80才台）

事 例 \ 項 目	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙		
A	受けたい	考えない	×	家	考えたことが ない	老人保健 体力づくり 家庭奉仕員		
B	受けたい	考えない	医師・家族の 判断に任せる	家	5年ぐらい	仕 事 体力づくり 友 人		
C	その時になっ てみないと分 らない	あ る	医師・家族の 判断に任せる	家	10年ぐらい	年 金 老人保健 環境・公害		
D	その時になっ てみないと分 らない	考えたくない	医師・家族の 判断に任せる	家	考えたことが ない	×	×	×
E	その時になっ てみないと分 らない	考えない	医師・家族の 判断に任せる	家	考えたことが ない	老人保健 老人センター 友 人		
F	その時になっ てみないと分 らない	あ る	×	家	考えたことが ない	年 金 老人保健 ×		
G	受けたい	あ る	必 要	家	考えたことが ない	年 金 ×	×	
H	×	×	×	×	cf × 平均寿命はまだのびる ㉚	×	×	×
I	その時になっ てみないと分 らない	考えない	どんなに苦し くても自然に 任せる	家	15年ぐらい	年 金 老人保健 行政の福祉政 策		

（注）×印は記載のないものを示す

②⑥では「その時になってみないとわからない」が過半数を占め②⑦では「考えない」、②⑧では「医師・家族の判断に任せる」がそれぞれ約半数を占めている。②⑨では殆ど全部が「死に場所」は「家」がいいと考えていることがわかる。

②⑩では「5年」「10年」「15年」と明瞭な数字を示すもの以外は「考えたことがない」と答えている。参考資料として第7表、平均余命を示したが同表に記された数字に比し、ある人は遠慮がちに、ある人はやや多い目に、そして多数の方々は平均余命などの存在を了知されていたかどうかなど考えさせられることの多い結果であった。

②⑪老人対策では「老人保健」に最も関心が集まっているが「年金」「体力づくり」などについても高い関心が得られている。

なおスタートの時点における砺波市内地区別高齢者実勢は第3表に示されているが調査

第7表 平均余命
(昭和60年における
80才台の男女別)

	男(年)	女(年)
80才	6.54	8.02
81才	6.13	7.47
82才	5.74	6.95
83才	5.37	6.45
84才	5.02	5.87
85才	4.69	5.52
86才	4.37	5.10
87才	4.08	4.70
88才	3.80	4.33
89才	3.54	3.97

対象のA、B地区では長寿者率で1・3位、老年人口割合では1・4位を占めるなど同市内では比較的上位を占めていることが指摘される。

この傾向は5年後の平成2年4月及び9月、更に5年後の平成7年9月にも保有されてお

別表1 砺波市高齢者実勢

(平成2年4月4日現在)

地区	項目	人口数	長寿者率	老年人口割合	その他
出	町	6,824	22.1	15.8	
庄	下	1,949	18.5	13.3	
中	野	1,671	26.1	18.7	
五	鹿屋	1,736	25.4	19.2	
東	野尻	1,824	23.2	17.2	
鷹	栖	2,674	20.4	14.2	
若	林	988	26.3	18.7	
	林	3,080	20.6	13.7	
高	波	1,544	27.5	20.2	
油	田	3,801	14.9	10.6	
南	般若	1,611	22.0	15.2	
柳	瀬	1,002	27.5	20.4	
太	田	1,776	24.2	17.8	
般	若	2,495	24.4	17.1	
東	般若	1,658	26.3	17.6	
梅	壇野	1,680	24.7	17.3	100才以上 1
梅	壇山	863	34.8	25.1	
合	計	37,172	22.7	16.2	100才以上 1

別表 2 砺波市高齢者実勢

(平成2年9月30日現在)

地区	項目	人口数	長寿者率	老年人口割合	その他
出 町		6,767	22.4	16.2	
庄 下		2,000	18.9	13.4	
中 野		1,669	26.2	19.1	
五 鹿 屋		1,726	25.6	19.0	
東 野 尻		1,809	23.7	17.2	
鷹 栖		2,665	20.7	14.2	
若 林		976	27.0	19.0	
林		3,090	20.7	14.1	
高 波		1,540	27.6	20.1	
油 田		3,820	15.0	10.7	
南 般 若		1,608	22.0	15.7	
柳 瀬		1,003	27.3	20.1	
太 田		1,781	24.1	17.6	
般 若		2,491	23.8	16.7	
東 般 若		1,659	26.9	18.0	
梅 壇 野		1,673	26.5	18.5	100才以上 1
梅 壇 山		857	35.1	25.7	
合 計		37,134	22.9	16.3	100才以上 1

別表 3 砺波市高齢者実勢

(平成7年9月30日現在)

地区	項目	人口数	長寿者率	老年人口割合	その他
出 町		6,736	25.7	18.6	
庄 下		2,196	19.7	14.8	
中 野		1,627	30.6	23.0	
五 鹿 屋		1,724	28.1	21.5	
東 野 尻		1,893	25.1	18.7	100才以上 1
鷹 栖		2,938	22.9	16.5	
若 林		944	30.4	22.9	
林		3,446	21.5	15.1	
高 波		1,525	28.9	23.4	
油 田		4,012	17.1	12.4	
南 般 若		2,097	19.8	14.4	
柳 瀬		1,602	23.2	18.2	
太 田		1,729	27.5	20.9	
般 若		2,361	29.0	21.7	
東 般 若		1,609	30.8	23.9	
梅 壇 野		1,584	30.9	23.0	
梅 壇 山		763	39.8	31.3	
合 計		38,786	25.0	18.6	100才以上 1

り、このことは別表1, 2, 3により知ることができる。

筆者らは都合により地区住民の皆さん方と接触、話し合いの機会を得ることは全くと言ってよい位なかったが、地区住民の皆さん方それぞれの自己健康管理が良好に行われた結果と推測される。

また両地区とも医療施設としてA地区に診療所、B地区に開業医院（女医）があったことも幸いしたことも考按される。

反面、若年者が地区外へ出て高齢者が人口の多数を占める傾向も考慮すべきで、今後とも個人的にも地区全体としても保健管理に精進すべきであることが強調される。

B地区は現在、無医地区となった（女医死亡のため）が、このような事情を踏まえて、篤志家の協力もあり、同地内で富山医科薬科大学保健医学教室の御尽力によって新たな充実発展の道が講ぜられ進行しつつあることは洵に喜ばしいことである。

おわりに

筆者らの思い立ちから砺波市内2地区についての調査研究に着手し、そろそろ20年近い

年月を閲する。

高齢化社会は年をとるのが喜びとなり楽しみとなる社会でなければならない（厚生省）が、半面、研究や事業など息の長い作業や長期的配慮を必要とするところもあることを覚悟しなければならない。

砺波市や両地区の自治会初め住民各位には何かと御協力を戴き衷心より感謝申し上げる次第である。

文 献

富山県農村医学研究会誌

第15巻 昭和59年3月

第17巻 昭和61年3月

第18巻第1号 昭和61年12月

第2号 昭和62年3月

第19巻 昭和63年3月

第20巻 平成元年3月

砺波市人口資料 昭和60年4月1日

平成2年4月4日

平成2年9月30日

平成7年9月30日

国民衛生の動向 昭和61年3月